

受講番号 19012 学校名 高知東高等学校 氏名 西本 典子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 17名  
 科目名 リーディング 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 Power On

クラスの様子・特徴

少人数のクラスだが、英語が得意な者、不得意な者に分かれており、授業への意欲や取り組みにかなりの差が見受けられる。真面目に授業に取り組む者がいる反面、私語や居眠りなど注意をしてもなかなか態度が改まらない者もいる。

問題の確定

細部に捕われず、英文を味わうことが生徒の意欲に繋がるのではないか。大意把握のための鍵となる接続詞の理解が必要である。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
意欲的にきちんと取り組める生徒が4分の1ほどいるが、反対に、なかなか集中できず、また、集中しても長く続かない生徒が半数以上いる。また、授業の最初から難しいと決めつけて、ほとんど取り組もうとしない者もいる。	授業のプリントやスピード、板書などへの意見が、英語が得意な生徒と不得意な生徒で分かれている。日頃の授業態度や出席状況などが良い生徒は授業を肯定的に捉えているが、あまり良好でない者は否定的に捉えている。	範囲を区切った単語テストなどは大半の生徒がまずまずできるが、基本的な単語力においては、二極化しており、語彙力にかなりの差がある。

リサーチ・クエスト

リーディングの授業において、個々の文は読み取れているのに、文章としての流れが捉えられていないために、全体を味わうことができない場面が多々ある。流れを捉える第一歩としての基本の接続詞を正しく理解するにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
and / but / because / when など、最も基本的で使頻度が高く、中学校で既習の接続詞をもう一度復習して確実なものにしていけば、文章の細かい内容の把握はできなくても、文章の大意を大きく誤って捉えることは免れるであろう。	基本の接続詞を使ってまずは、短い文と文をつないでいく練習を繰り返し行ってみた。また、自分で、短い英語の文章の中で、習った接続詞の使い分けを考えながら( )に当てはめさせた。次に簡単な1文ごとの和文英訳をしてみることで、それぞれの接続詞の理解を深めていくようにした。	自分で短い文をつないでいく練習問題では、接続詞の使い分けも高い割合で正しくできたが、与えられた英文の( )に接続詞を選んで入れる問題では、予想外に、最も基本の andやbut の使い分けさえもできないことがわかった。日本語の文章であれば接続詞は簡単でも、英語の文章では、ある程度の内容把握ができていなければ、順接、逆接の判断さえも容易ではないことがわかった。
次のステップとして、習った接続詞を使ってのごく簡単な自由英作文を試みることで、徐々に正しい使い方ができるようになるのではないだろうか。自分で実際に接続詞を使う必要性を感じるようになってくのではないだろうか。	短い文と文をつないでいくのではなく、生徒全員に同じ日本語の短い話を読ませ、各自、自由にそれを頭の中で要約させ、自分なりに簡潔にストーリーを組ませた。そして、それを習った接続詞を使いながら、自由に英作文をさせてみた。	まず何よりも、日本語を理解し、要約する段階でつまずいた。単なる事柄の羅列ではなく、やや、抽象的な内容だったこともあり、ほとんど英文に書き換えることができなかった。また、参考となる英文も与えられていなかったため、ほぼ、全員がお手上げ状態だった。
今までに学んできた接続詞を中心に、ある程度のまとまりのある文章を読んだり、また、自分で書いてみることで、接続詞の使い方や効果をより深く理解し、また、ある程度、自分のものとして自由に使えるようになるのではないだろうか。	接続詞を中心に、その使い方が好ましくない短かめのまとまった文章を読ませ、それらをより簡潔に、より理解しやすい、より良い文章に書き換えさせてみた。また、最終的には日記風な文章を書かせてみて、接続詞の理解度を確かめてみた。	習った接続詞をなるべく使うことによって、少しでも長い文を書くようにという条件で、英作文の書き換えや自分の日記を書かせた。結果として接続詞を使い日頃よりは長い文を書くことはでき、生徒たちの努力のあとが伺えた。しかし、あまり良い文章とは言えないものが多かった。また、全体として、接続詞以前の正しい英文を書くという点で、まだまだ課題があることを痛感した。

研究の成果

焦点を絞り、練習問題の形式で与えられたものを繰り返し行えば、以前は特に意識していなかったことでも、意識するようになり、より深く英文を捉えるようになってきたと思う。例えば andやbutなど、理解していたつもりだった基礎の接続詞でも誤った使い方をしていたことに気づくことができた。また、他の接続詞の必要性も感じ始めてくれたようである。最初は難しいと思われるものでも、基礎から徐々にゆっくりと積み重ねていけば、生徒たちのやる気も喚起でき、また、一歩ずつ生徒たちの確かな力になっていくことを実感できた。

今後の授業改善の課題

リーディングの授業における英作文のような内容になってしまった。振り返ってみると、自分としては step by step で授業を進めたつもりだったが、生徒たちにとっては、一足飛びに内容が難しくなった時もあったようで、段階に無理があったことを反省している。一歩ずつレベルアップしていくように、教材や指導の工夫の必要性を感じている。

リサーチについての問合せ先: 職場電話 088-845-5751 電子メール